

## 集会アピール（案）

第二次世界大戦終結から 80 年が経ちました。しかし、この間も世界は、朝鮮戦争、ベトナム戦争、湾岸戦争、イラク戦争など大きな戦争を経験し、今なお、ウクライナやガザなどで戦乱が続いています。そして、日本は、自衛隊の海外派兵などを通じて、戦争に関与する危機が何度もありました。しかし、その都度、戦争を許さない市民は、戦争放棄、戦力不保持を定めた憲法 9 条に立脚して、政府に対し、日本が「戦争する国」になることを拒否し、平和国家を維持してきました。

ところが今、憲法を無視して、日本を「戦争できる国」・「戦争する国」にしようとする動きが加速しています。安保法制強行からの 10 年間で、日本は、日米安全保障条約の下、台湾有事の最前線に位置づけられています。ここ京都でも、この夏、陸上自衛隊祝園分屯地で国内最大規模となる 14 棟の弾薬庫の増設工事が始まりました。そこには、海上自衛隊舞鶴基地のイージス艦に搭載するトマホークが保管されるといわれています。これら京都府内の自衛隊基地は、京丹後市経ヶ岬の X バンドレーダー基地と一体となって、敵基地攻撃の最前線になろうとしています。

さらに、日本の政治は、重大な岐路に立たされています。7 月に行われた参議院選挙では、極右政党が大幅に議席を増やしました。彼らは、自らの新憲法構想の中で、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義など、日本国憲法の基本原則を否定し、戦後の市民社会が獲得してきた個人の尊厳を奪おうとしています。

10 月には、**自由民主党と日本維新の会の連立政権が発足し、憲法改悪、武器輸出規制の撤廃、軍事産業の国有化、外国人に対する取り締まりの強化など、極右的な政権合意を掲げました。また、比例代表を標的にした議員定数の削減により、国会から政権に従わない多様な民意を排除し、過剰労働の容認をはじめとする市民の暮らしを破壊する政策に着手しようとしています。「スパイ防止」の名のもとに、市民を監視し、人権侵害・弾圧する手段となる法律も速やかに成立させるとしています。治安維持法が制定された 100 年前に歴史を逆戻りさせないため、市民による大運動を呼びかけます。**

日本国憲法は、「全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利」を謳い、「日本国民は、国家の名譽にかけ、全力をあげて」憲法の「崇高な理想と目的を達成すること」を宣言しました。この理想のもと、戦後 80 年間、私たち市民は、個人の尊厳、基本的人権の尊重、自由と平等、平和と民主主義を着実に前進させ、戦力に頼ることなく「国際社会において、名譽ある地位を占め」ることを目標として、命と暮らしを守ってきました。

本日 11 月 3 日、日本国憲法の公布を記念して、私たちは、ここ円山公園音楽堂に集い、人類の進歩に逆行する極右・排外主義が発言力を高めることに警戒を強め、民主的平和憲法を固く守り、平和と人権の旗のもとに、幅広い市民の共同を作り上げることを宣言します。